

信州大学医学部附属病院 呼吸器・感染症・アレルギー内科に
通院中または過去に通院・入院された患者様またはご家族の方へ
当科における臨床研究にご協力をお願いいたします。

平成 28 年 2 月 2 日

「高分解能 CT にて蜂巢肺を認めない特発性肺線維症」に関する臨床研究(後ろ向き観察研究)を実施しております。

信州大学医学部医の倫理審査委員会の審査による医学部長の承認を得て、調査を行っています。このような研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。

倫理審査承認番号	3329
課題名	高分解能 CT にて蜂巢肺を認めない特発性肺線維症に関する臨床および画像経過に関する検討
研究機関	信州大学医学部附属病院(自治医科大学等)
研究責任者	信州大学医学部附属病院 (呼吸器・感染症・アレルギー内科 山本 洋)
研究実施期間	平成 28 年 2 月 3 日～平成 29 年 3 月 31 日
研究の意義、目的	特発性肺線維症(IPF)は臨床病理学的概念であり、その病理組織パターンは通常型間質性肺炎(usual interstitial pneumonia: UIP)です。IPF の多くは慢性かつ進行性の経過をたどり、高度の線維化が進行して不可逆性の蜂巢肺形成をきたす原因不明の予後不良の疾患です。IPF と診断するためには臨床・画像・病理を総合的に評価する必要がありますが、特に画像で蜂巢肺の所見を認めることが IPF 診断において従来から重要視されてきました。しかし IPF 症例によって臨床画像の推移のパターンは様々であり、IPF の中には蜂巢肺を形成しない症例も報告されています。そのため、本研究において蜂巢肺を認めない IPF に関する臨床および画像経過を調査することで、それら一群の臨床的特徴や予後を明らかにすることを目指します。
対象患者様	1991 年 1 月 1 日から 2010 年 12 月 31 日までに当院で高分解能 CT(HRCT)で蜂巢肺を認めず、外科的肺生検がなされて特発性肺線維症(IPF)と診断された方。
利用カルテ情報	診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果、画像データなど
その他	この研究は、自治医科大学附属病院呼吸器内科に事務局をおく多施設共同研究です。

既存の検体と診療記録、検査結果を研究、調査、集計しますので、新たな診察や検査、検体の採取の必要はありません。

当院外へお名前や個人情報がでることはありません。

必要な情報のみを集計します。研究成果は今後の医学の発展に役立つように学会や学術雑誌で発表しますが、患者様を特定できる個人情報を利用しません。

この研究に検体を利用することをご了解いただけない場合、またご不明な点については、下記のお問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

この研究でご自分の検体、診療記録の利用をお断りになっても、通常の診療などで不利益を受けることはありません。上記の研究期間中であれば、いつでもお断りいただけます。

お問い合わせ先: 信州大学医学部附属病院

担当者 呼吸器・感染症・アレルギー内科 山本 洋 (電話: 37-2631)